

一 次の文章を読み、後の各問いに答えなさい。

大人になったワタルは、小学校の時の友人との約束を果たすため、過去を回想してこの手記を書いている。一九八六年、小学校四年生のワタルには、ヤンチャ・ノリオ・ハム太という仲良しの友人がいたが、ある日、一番元気の良いヤンチャが原因不明の病気にかかり入院する。ヤンチャはタイムマシンを作って病気を治してほしいと三人に頼み、三人はタイムマシンを作ることを約束してガラクタを使って作るが、完成した日にヤンチャは亡くなってしまった。タイムマシンが動くこともなく、約束は果たせなかった。以下はそれに続く場面である。

1 ヤンチャのお葬式に僕らは出なかった。前におじいちゃんが死んだ時、焼かれた後の白い骨を箸で拾った話をしたら、ノリオもハム太も絶対に出たくないと言ったのだ。

その日、太陽がすっかり沈んでしまうまで、僕らは秘密基地のそばの河原にべたんと腰をおろし、ときどき小石を水に投げこんだりして過ごした。昼間のうちよく晴れていたせいで、あたりはこの前よりさらにドブ臭かったけれど、お尻の下の丸い石はどれも温かった。

「ハム太……」

あたりがだいぶ薄暗くなつてから、ノリオが言った。

「お前んちの修理工場さ。お前が継ぐんだろ」

「そんなの、まだわかんないよ」ハム太は、鼻のつまりきった声で言った。

「それで、ワタルはさ」ノリオは僕に目を向けた。「お前は、いろいろ想像すんの得意だし、作文もうまいだろ？ だから、これまでのことをちゃんと書いてほしいんだ。オレたちや、それからもちろん、ヤンチャのことをさ。いつかオレたち、今日のことをはっきり思い出せなくなるかもしれない。そんな時でも、書いたものがちゃんと残ってたら、それを読んで、今のこの気持ちを思い出すことができるんじゃないかと思うんだ。何ていうか……ほら、押し入れから出てきた日記みたいにし。わかるか？」

「うん」と、僕は言った。「わかるよ」

実際、僕にはノリオの言おうとしていることがよくわかった。

僕らはもう、たとえば七歳だった頃のことを忘れていた。四歳ごろの記憶ともなれば、すでに霧の彼方だ。これだけは絶対に覚えておこうと心に決めたことでさえ、僕らはころりと忘れてしまう。やがては、ヤンチャのことも。あるいは、ヤンチャがどうして死ななければならなかったかというこも。

「いつか、本物のタイムマシンが出来たらさ」と、僕は言った。^{※2}「あのおっちゃんと言ってたみたいに、ずっと昔の世界にも行こうな」

「うん」

「きつと行こうな」

「うん！」

「絶対……ぜったい行こうな……！」

2 あれほど固く交わしたはずの約束が、やがて力を失っていくのはなぜなんだろう。あんなに強い思いが、いつしか薄れていってしまうのはどうしてなんだろう。

「でも、まあたぶんな。……なんで？」

「オレさ。今、決めた」とノリオは言った。「オレはこれからうんと勉強して、将来はきつとすごい発明家になってみせる」

「発明家？」

「うん。それで、いつか絶対、本物のタイムマシンを発明してみせる。真正銘、本物のやつをさ」^{しんしょうめい}

「お前、まだあきらめてないのかよ」とハム太は言った。「ヤンチャみたいな病気を治したいんなら、医者になったほうが早いんじゃないの？」

「だめなんだ、それじゃ」と、ノリオは言った。「今から医者になったって、ヤンチャを助けるのには間に合わない」

① 答えようがなくて黙っていると、ノリオは僕らのほうに向きなあった。

「なあハム太、オレを信じろよ。オレ、絶対頑張って作りだしてみせるからさ。そしたらお前、お前んちの工場の機械全部使って、それを組み立ててくれよ。そうすれば、みんなで今の時代に戻ってきて、ヤンチャのやつに会える。病気だつて治してやれるかもしれない」

「で……できるのかな、そんなこと」

とハム太。

「できるのかな、じゃなくて」ノリオはきつぱり言いきった。「やるんだよ」

「……うん」

もう誰も泣いてはいなかった。^②何か大きなものが——ひとかたまりの時間というか、ひとつの時代とでもいうべきものが終わりをかけているのを、そのとき僕らは感じていたのだと思う。どんなに泣いたところで、ヤンチャはもう帰ってこない。四人は、永久に三人になってしまった。これから先、僕らは何とかして、ヤンチャ無しでやっていかなくてはならないのだ。

あの頃——僕は何度も、何度も……指の節が白くなるくらい強く鉛筆を握りしめてノートに向かった。

でも、宿題の作文を書くような具合にはいかなかった。それどころか、一行も書けなかった。何が大事なことで、何がどうでもいいことなのか、迷いはじめたらどんどん深みにはまってしまつて、結局いつも最初の一文字すら書きつけることができなかった。早く書きあげて読ませろよ、と他の二人から急かされてられるたびに、僕は、もう少しだからとか、最初からもういっぺん書き直しているんだとか言つてごまかし続けた。僕が人より得意なことといったら作文を書くことくらいしかないのに、それさえもできないでいるなんて言えるわけがない。

やがて僕らは五年生になり、再びクラス替えが行われて、今度は三人ともばらばらになった。

ノリオやハム太がどうだったかは知らないが、僕は正直、ほっとする思いだった。^④

書けないでいたせいばかりじゃない。彼らと一緒にいる限り、何をしていても（一人足りない）という感じから逃れられなかったからだ。柿どろぼうもセミ捕りも、缶けりも高才二も戦争ごっこも、前ほど面白くなかった。三人でいる寂しさよりは、一人でいる寂しさのほうがまだまだしに思えるほどだった。

⑤ そうしていつしか、あの日の約束はうやむやになっていった。

皮肉なものだ。（約束を守らなければ）という、使命感にも似た強い気持ちがあった頃は、経験を言葉にする能力が足りなかったというのに、ようやくその能力が身についた頃には、気持ちのほう^bがなしくずしに薄らいでいる。時とともに色褪せていくのは、記憶ばかりではないのだ。

⑥ そして僕は、ひとつ学んだ。

〈約束を果たすには力がある〉

どれほど固く交わされた誓いも、どんなに強い思いでさえも、それだけでは何の意味もない。

実現させるには、実現させるに足るだけの力が必要になる。あの頃の僕にはその力がなかった。なぜって……子供だったから。

I いや——わかっている。こんなのは、ただの言い逃れにすぎない。

そういう具合に、僕が自分の身に降りかかるほとんどのことから逃げ、残りをのりくりりとやり過ごしている間に、世界はいつのまにか新しい時代を迎えてしまった。

※3 ひとつの世紀の終わり。

ひとつの千年紀の始まり。

【ア】 何がそんなにめでたいのか、お祭り気分で沸き返っている世間を、僕は醒めた気分^なで眺めていた。何もかもが大きく変わるように見えて、そのじつ、変わるのはいせいで年号くらいじゃないかと思えたからだ。昨日とよく似た今日が、今日とよく似た明日が、ただとめどなくくり返されていくだけじゃないか、と。

あるいはこんなふうな諦め^{あきらめ}も、一種の逃げなのかもしれないけれど。

※4 (中略)

3 そうして、僕はといえば——。

人のことは言えない。Ⅱ 相も変わらずはつきりしない性格のまま〈クウソウヘキ〉に身をまかせて毎日を送っている。一度は会社勤め^{ぶと}もしてみたのだが、結局、一年ともたなかった。それきり定職^{ていしやく}にはついていない。気の向くままにあちこちの国をふらふらして、目にしたことや心に引か

⑨ その意味において言うなら、あるいはこれは僕にとつての——いや、僕ら四人にとつての、〈タイムマシン〉第一号と言えるのかもしれない。

⑩ なんだか、大海原に向かつて手紙入りの小瓶^{こびん}を投げるみたいな気分になってきた。

【エ】 あの二人のほかにいったい誰が読んでくれるのかはわからないけれど、これを手にしたその人が、きつとまた別の誰かに手渡してくれることを信じて……。

〈発進！ 僕らのタイムマシン！〉

ヤンチャ。

聞こえてるか？

(村山由佳『約束』より 一部改変)

※1 原因不明の病氣：省略した文中に、ワタルが見たニュースで、この病氣の原因は高度経済成長による地球環境の激変が関係しており、この病氣は人間に対する自然からの罰だと紹介されている。それを見たワタルはヤンチャには無関係なのにと激昂^{げきりやう}する。

※2 「あのおっちゃんが言っていたみたい」：ヤンチャと同じ病室のおじさんが、四人のタイムマシンの話を聞き、タイムマシンがあったら三十年前に行って、そこで好き放題している人間に未来の人間が尻ぬぐいさせられていることを思い知らせてやりたいと言ったことに対応している。

※3 「ひとつの世紀の終わり」は西暦二〇〇〇年、「ひとつの千年紀の始まり」は西暦二〇〇一年を指す。

たことを書き留めてはみるものの、他人に読ませたことなどないし、どこかに発表しようという気もない。このごろは親もあきらめているらしい。

Ⅲ それでも僕は——そんな日々の合間を縫う^{ぬい}ようにして、少しずつこれを書きつづつた。あの日から数えるとずいぶん時間がたってしまったけれど、ともかくにも最初の一行を書き始めることには成功し、あとは最後まで書きあげようと努力した。

【イ】 ただし、あの頃のような使命感からじゃない。果たせないままの約束をずっと引きずって歩くのが、いつからか、しんどくてたまらなくなってきたからだ。逃げるのをやめた、というよりは、正直なところ、もはや逃げきれなくなった、というのに近い。

けれどこれは、今まで僕が書きためてきたようなものとはずいぶん趣^{おもむき}が違っている。だから、この先たどる道筋も、違っていくんじゃないかと思う。少なくとも、書いたものを自分以外の誰かに読んでもらいたいなんて思ったのは、これが初めてだ。

そう、誰よりもまずは、あの二人に読ませてやらなくちゃならない。

僕らがあの日、河原で交わした約束を思い出すために。

⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪 㳫 㳬 㳭 㳮 㳯 㳰 㳱 㳲 㳳 㳴 㳵 㳶 㳷 㳸 㳹 㳺 㳻 㳼 㳽 㳾 㳿 㴀 㴁 㴂 㴃 㴄 㴅 㴆 㴇 㴈 㴉 㴊 㴋 㴌 㴍 㴎 㴏 㴐 㴑 㴒 㴓 㴔 㴕 㴖 㴗 㴘 㴙 㴚 㴛 㴜 㴝 㴞 㴟 㴠 㴡 㴢 㴣 㴤 㴥 㴦 㴧 㴨 㴩 㴪 㴫 㴬 㴭 㴮 㴯 㴰 㴱 㴲 㴳 㴴 㴵 㴶 㴷 㴸 㴹 㴺 㴻 㴼 㴽 㴾 㴿 㵀 㵁 㵂 㵃 㵄 㵅 㵆 㵇 㵈 㵉 㵊 㵋 㵌 㵍 㵎 㵏 㵐 㵑 㵒 㵓 㵔 㵕 㵖 㵗 㵘 㵙 㵚 㵛 㵜 㵝 㵞 㵟 㵠 㵡 㵢 㵣 㵤 㵥 㵦 㵧 㵨 㵩 㵪 㵫 㵬 㵭 㵮 㵯 㵰 㵱 㵲 㵳 㵴 㵵 㵶 㵷 㵸 㵹 㵺 㵻 㵼 㵽 㵾 㵿 㶀 㶁 㶂 㶃 㶄 㶅 㶆 㶇 㶈 㶉 㶊 㶋 㶌 㶍 㶎 㶏 㶐 㶑 㶒 㶓 㶔 㶕 㶖 㶗 㶘 㶙 㶚 㶛 㶜 㶝 㶞 㶟 㶠 㶡 㶢 㶣 㶤 㶥 㶦 㶧 㶨 㶩 㶪 㶫 㶬 㶭 㶮 㶯 㶰 㶱 㶲 㶳 㶴 㶵 㶶 㶷 㶸 㶹 㶺 㶻 㶼 㶽 㶾 㶿 㷀 㷁 㷂 㷃 㷄 㷅 㷆 㷇 㷈 㷉 㷊 㷋 㷌 㷍 㷎 㷏 㷐 㷑 㷒 㷓 㷔 㷕 㷖 㷗 㷘 㷙 㷚 㷛 㷜 㷝 㷞 㷟 㷠 㷡 㷢 㷣 㷤 㷥 㷦 㷧 㷨 㷩 㷪 㷫 㷬 㷭 㷮 㷯 㷰 㷱 㷲 㷳 㷴 㷵 㷶 㷷 㷸 㷹 㷺 㷻 㷼 㷽 㷾 㷿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆 㸇 㸈 㸉 㸊 㸋 㸌 㸍 㸎 㸏 㸐 㸑 㸒 㸓 㸔 㸕 㸖 㸗 㸘 㸙 㸚 㸛 㸜 㸝 㸞 㸟 㸠 㸡 㸢 㸣 㸤 㸥 㸦 㸧 㸨 㸩 㸪 㸫 㸬 㸭 㸮 㸯 㸰 㸱 㸲 㸳 㸴 㸵 㸶 㸷 㸸 㸹 㸺 㸻 㸼 㸽 㸾 㸿 㹀 㹁 㹂 㹃 㹄 㹅 㹆 㹇 㹈 㹉 㹊 㹋 㹌 㹍 㹎 㹏 㹐 㹑 㹒 㹓 㹔 㹕 㹖 㹗 㹘 㹙 㹚 㹛 㹜 㹝 㹞 㹟 㹠 㹡 㹢 㹣 㹤 㹥 㹦 㹧 㹨 㹩 㹪 㹫 㹬 㹭 㹮 㹯 㹰 㹱 㹲 㹳 㹴 㹵 㹶 㹷 㹸 㹹 㹺 㹻 㹼 㹽 㹾 㹿 㺀 㺁 㺂 㺃 㺄 㺅 㺆 㺇 㺈 㺉 㺊 㺋 㺌 㺍 㺎 㺏 㺐 㺑 㺒 㺓 㺔 㺕 㺖 㺗 㺘 㺙 㺚

問1 〰〰〰a〰cの言葉の文中での意味として最もふさわしいものをそれぞれ選択肢から選びなさい。

a うやむや

ア 自然と忘れてしまうこと

イ 取るに足らない軽々しいこと

ウ あるのかないのかはつきりしないこと

エ のしかかるような重々しさをもつこと

b なしくずしに

ア なりゆき任せのうちに イ 予想以上に急速に

ウ 無意識のうちに エ ありのままに

c そのじつ

ア まるで イ 実際は ウ 反対に エ 加えて

問2 ①——「答えようがなくて黙っている」とありますが、それはなぜですか。その理由として最もふさわしいものを次から選びなさい。

ア ヤンチャの死の悲しみからまだ逃れられずにいるのに、ノリオが関係のない将来の話をしてきたことに対し強い怒りを覚えたから。

イ タイムマシンを作ること失敗したばかりなのに、すぐにまた新しいタイムマシンを作ろうとするノリオの切りかえの早さに驚いたから。
ウ 何が何でもヤンチャを助けるというノリオの情熱に圧倒され、ふと自分の友情の薄さに気づいてしまい、深い罪悪感を抱いたから。

エ ヤンチャは死んでしまったのに、ノリオがまだタイムマシンを作つてヤンチャを助けるという現実離れしたことを言うので啞然としたから。

問5 ①段落の末尾に向かって、タイムマシンを作っていつかヤンチャ

を助けようと約束する三人の語調が徐々に強くなることからどのようなことが読み取れますか。その説明として最もふさわしいものを次から選びなさい。

ア いつかヤンチャを救うと約束することで、ヤンチャを失った喪失感を埋め、その約束を残された自分たちのこれからの人生の支えにしようと思っていること。

イ ヤンチャを失って崩れかけた友情を取り戻すため、亡くなったヤンチャの存在をこれからも三人の中心に置くことで、三人を離れられない間柄にしようと思っていること。

ウ 残された三人が、ヤンチャを本気で救いたいと思っているのは自分だけではないかという不安を抱き、他の二人に同じ気持ちを持ってもらいたいと思っていること。

エ 三人それぞれが、タイムマシンを作ることが本当は無理なことだとわかっていながらも、約束をすることでヤンチャへの友情の証としようと思っていること。

問3 ②——「何か大きなものが——ひとかたまりの時間——そのとき僕は

は感じていたのだと思う」とありますが、ここでいう「何か大きなもの」とは何だと考えられますか。その説明として最もふさわしいものを次から選びなさい。

ア これからも永遠に続くと思われて疑わなかった友人たちとの絆。

イ 人の生き死には無縁の、無邪気に遊んだ子供だけの親密な時間。

ウ 大人に頼り切って、自力では何も出来なかった未熟な少年時代。

エ 仲間とともに失敗しながらも毎日を全力で生きた記憶。

問4 ③——「今のこの気持ち」とありますが、これはどのような気持ちですか。次のように説明したとき、空欄にあてはまる言葉を2段落の文中から十字以内で書き抜きなさい。

タイムマシンを作って、ヤンチャにもう一度会うという(十字以内)気持ち。

問6 ④——「僕は正直、ほっとする思いだった」とありますが、それはなぜですか。その理由として最もふさわしいものを次から選びなさい。

ア 今や三人のそれぞれが友人の死を克服しており、自分の力だけで生きていくべきだと考えていたところだったから。

イ 自分たちの経験を手記として書くという約束を果たせそうになく、どのように二人に説明したらよいか困っていたから。

ウ 三人でいない方が約束の手記が書けない負い目から解放される上、友人の死の事実を突きつけられずに済むから。

エ いまだヤンチャを救うことに邁進している二人に対して、若干冷めた気持ちと後ろめたさを持っていたから。

問7 ⑤——「皮肉なものだ」とありますが、ここでは何が「皮肉」のですか。次のように説明したとき、空欄にあてはまる言葉をそれぞれ二字で答えなさい。ただし、a・b・dは2段落の文中から抜き出し、cはaの対義語を考えて書きなさい。

約束を守りたかった頃はaであったためbするだけの力がなかったが、cになって力を身につけた今は逆に約束を守りたいというdが薄らいでいたから。

問8 ⑥——「(約束を果たすには力がある)」とありますが、この「力」は具体的には二つの力を指します。その力をそれぞれ「力」に続く形で十五字以上二十字以内で答えなさい。

問9 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲから、ワタルのどのような変化が読み取れますか。その説明として最もふさわしいものを次から選びなさい。

ア 常に社会を醒めた目で見てしまうのは変わらないが、友人たちとの約束を果たそうという気持ちは冷めることがなく、生きる上で最優先している。

イ 友人の死によって果たせなかった約束があるにも関わらず、安易な気持ちでもう一つの約束を交わしてしまい、その達成のために苦しい生活をしている。

ウ 友人を失った悲しみから逃れることが出来ず、何事からも逃げてしまふようになりながらも、約束を守る術を見つようと必死にあがいている。

エ 大人になっても子供の時と同じく社会の波についていけず、約束を果たす情熱は薄れながらも、自分を縛る約束から解放されるようにつとめている。

問10 ⑦——「書いたものを自分以外の誰かに読んでもらいたい」とありますが、この手記の中でワタルが最も他者に伝えたいと考えているのはどの部分ですか。それが述べられている段落を【ア】～【エ】の中から選びなさい。

問13 ⑩——「大海原に向かって手紙入りの小瓶を投げるみたいな気分」とありますが、これはどんな気分ですか。その説明として最もふさわしいものを次から選びなさい。

ア 読んでもらえるかどうかという不安と期待が入り交じった気分。

イ 書き終えて約束を果たしたことへの大きな達成感に高揚した気分。

ウ 自分の人生と同じでこの手記の行き着く先が見えない投げやりな気分。

エ 自分の人生で為すべきことは全て終えたという終焉に向かう気分。

問14 この文章に描かれている「約束」とはどのようなものと筆者は考えていますか。その説明として最もふさわしいものを次から選びなさい。

ア 交わした相手との結びつきを強くするが、時には依存し合う仲にしてしまいかねないもの。

イ 達成しようという意志が生きる支えになるが、達成できないと人生を狂わせかねないもの。

ウ 果たそうという思いが強ければ強いほど、それを実現する力も大きく身につくもの。

エ 果たそうという思いと、果たすだけの力の両方を合わせ持たないと達成できない難しいもの。

問11 ⑧——「ヤンチャがあんなふうになるまで僕らが考えてみようとしなかったこと」とありますが、これはどのようなことですか。その説明として最もふさわしいものを次から選びなさい。

ア 次世代を考えない現代社会の悪しき風潮。

イ 身近な人間も突然死ぬという人の命の不確かさ。

ウ 見向きもなかった過去の歴史からの教訓。

エ 自覚してなかった自己と社会との関係性。

問12 ⑨——「その意味において言うなら（タイムマシン）第一号と言えるのかもしれない」とありますが、「タイムマシン」という言葉がここだけ（ ）がついているのは、この「ワタルの手記というタイムマシン」がどのようなものだからですか。その説明として最もふさわしいものを次から選びなさい。

ア 実際に過去や未来を行き来するわけではなく、現在の自分の立ち位置から未来を想像するものだから。

イ 未来とは無関係で、過去の思い出を現在に鮮やかによみがえらせるにすぎないものだから。

ウ 何度も過去を見つめ直し、また過去から何かを学ぶことで、未来を変えようとするものだから。

エ 過去のできごとを美化することで、未来に向かって生きていく上での自信となるものだから。

問15 この小説の表現の特徴を説明したものとして最もふさわしいものを次から選びなさい。

ア 過去の回想に終始することで、現在の主人公の状況を読者の想像に任せている。

イ 主人公の独白という形にすることで、読者が主人公に感情移入しやすくなっている。

ウ ところどころ行間を空けることで、時間の変化をわかりやすいものにしていく。

エ 登場人物一人一人の心情がわかるように、複数の視点から物語を展開している。

二 次の文章を読んで、後の各問いに答えなさい。

日本語では恩に^a□で感謝する表現が多い。「してください」という言い方を多く使う。「ちょっと待ってくれ」という場合の英語の表現をそのまま訳したら「ちょっと待て」。もし、相手に対する敬意を加えるなら「ちょっとお待ちなさい」だが、この言い方では、相手はいくら敬意を表されても^I□のような感じがしてころよくない。これは「ちょっとお待ちください」と言って、相手が待つことによってこちらは恩恵^{おんけい}を受けることを表すのがいい。

ここでおもしろいのは、「ちょっとお待ちなさい」はダメだが「ちょっと待って」ならばまだいいということだ。「ちょっと待って」には敬意が全然こもっていないのになぜいいのかというと、その次に「^{II}□」が省^{はぶ}かれてる感じがある、この「^{II}□」に敬意と感謝の気持ちが含まれているのが感じられるからだ、というためだ。

「させていただく」という言い方も、日本人の好きな言い方の一つだ。街を歩いていて、理髪店^{りはつ}などによく「本日はこれにて閉店させていただきます」と書いてある。「させていただきます」——自分が閉店できることは、自分の希望を通すこと、それを許していただくのは^{III}□ことである、ということの意味しているわけで、いかに日本語らしい表現の一つである。

ところで、日本人は、感謝する以上にあやまるのが好きなようだ。人から^b□□を受けた場合に「ありがとうございます」とも言うが、「すみませんでした」という言葉を多く使う。バスなどに乗っていて席を譲^{ゆづ}られた場合、「ありがとうございます」と言ってもよさそうなものだが、「どうも

すみません」と言って腰をかける方が多い。それは「自分がここに立っていたためにあなたは立たざるを得ない、^{IV}□」という意味で、言われる方は確かにその方が気分がいいかもしれない。

本多勝一^{ほんだかついち}の『極限の民族』という本の中にこんな話がある。外国人を家へ泊めた。ところがその家のストーブがこわれてしまった。その場合に、外国人は「ストーブがこわれました」と言うのだそうだ。日本人としてはどうもおもしろくない。日本人ならば「ストーブをこわしました」と言う。そうすると、泊めてあげた家の人も「いいえ、そのストーブはもともと……」と言ってそれを弁護する。これが日本人らしい言い方である。

（金田一春彦『日本語を反省してみませんか』より、一部省略してある）

問1 a、b、cについて次の各問いに答えなさい。

(1) aの空欄にふさわしい漢字一字を次より選びなさい。

ア 見 イ 似 ウ 着 エ 居

(2) bの空欄にふさわしい漢字を次より選びなさい。

ア 好意 イ 厚意 ウ 行為 エ 高位

(3) cのここでの意味と最も近いものを次より選びなさい。

ア 気に入らない イ 趣がない
ウ 関心を持ってない エ 情けない

問2 空欄^{II}に適切なひらがな四字を、^I□、^{III}□、^{IV}□

にふさわしい表現をそれぞれ次より選びなさい。

ア 申し訳ない イ いけないことをした
ウ うれしい エ ありがたい
オ いばられている カ しかられている

問3 ①「いかにも日本語らしい表現」とありますが、本文において

筆者が考える「日本語らしい表現」の特徴とはどのようなことですか。最も適切なものを次より選びなさい。

ア 相手と自分の関係が常に上下関係であるために、言葉遣いにそれを反映させようとする特徴。
イ 相手にへり下る表現をすることで、相手と自分の関係を円滑にしよ
うとする特徴。

ウ 言葉に敬意と感謝を表してさえいけば、むしろ自分の意志は問われないという特徴。

エ 感謝よりまず謝罪してしまうことで、相手とのトラブルを未然に避けようとする特徴。

問4 ②「日本人は、感謝する以上にあやまるのが好きなようだ」と

ありますが、筆者はそれはなぜだと考えていますか。最も適切なものを次より選びなさい。

ア 感謝するより先にあやまってしまったほうが、相手とコミュニケーションをとらないで済むから。

イ 感謝するより先にあやまってしまったほうが、相手の気分を良くし
トラブルを避けられるから。

ウ 感謝するよりまずあやまることで、相手の自分への批判を封じ込め
ることができるから。

エ 感謝することよりあやまることのほうが、自分を低めることで結果
的に相手をより高めることになるから。

問5 ③——「それ」とはどのようなことを指しますか。ここまでの本文

の内容をふまえて、最も適切なものを次より選びなさい。

ア 相手が「ストーブをこわしました」と言ったこと。

イ 相手が嘘をつかず正直な態度を見せたこと。

ウ 相手が、壊れた責任を一旦は自分の責任かもしれないとするへり下った態度を見せたこと。

エ 相手が、あやまることが自分の損になるのを承知の上であやまってきたこと。

問6 Ⅱとありますが、筆者はこの日本人の言い方を肯定していますか、

それとも否定していますか。前者だと思う場合はa、後者だと思う場合はbを答え、さらにその理由として最も適切なものを次より選びなさい。

ア 筆者は、日本人にとって「あやまる」ことは、罪を認め謝罪するというより、自らが謙遜する態度を示すことで人間関係をスムーズにしようとする日常的な気づかいの現れだと考えているから。

イ 筆者は、「あやまる」というたてまえの無い、事実を率直・客観的に表現することを、むしろ厚かましい粗野な態度だと考えているから。

ウ 筆者は、日本人の「あやまる」という行為を、事実を率直・客観的に表現することが身につかない前近代的なことだと考えているから。

エ 筆者は、日本人の「あやまる」という行為を、あやまりさえすれば済むという問題解決を避けたがる安直な方法だと考えているから。

三

次の——部をふまえて、（ ）にふさわしい語を後から選び、記号で答えなさい。

① まるで悪夢の（ ）出来事だった。

② どうして質問に答えられない（ ）。

③ おそらく今年の冬も寒い（ ）。

④ もし雨が降った（ ）運動会を開催する。

⑤ 彼はこの件とはまったく関係が（ ）。

ア のか、イ ような ウ だろう

エ としても オ ない

四

次の——部の漢字には読みを書き、カタカナは漢字に直しなさい。

① 鋼のような肉体。

② 座右の銘。

③ 蚕を育てる。

④ 短冊に願い事を書く。

⑤ 厳かな式典。

⑥ 朝食にギョウニユウを飲んだ。

⑦ グラスがワれる。

⑧ 決勝戦にノゾむ。

⑨ 祖父のイサン。

⑩ 災害にソナえる。

中学国語解答用紙1-A

受験番号

氏 名

得 点

一

問 1	a
b	c

問 2	問 3	問 4
5		
10		

気持ち。

()

問 5	問 6
-----	-----

()

問 7	a	b	c	d
-----	---	---	---	---

()

問 8	2つ目	1つ目
5	5	5
10	10	10
15	15	15
20	20	20

力。 力。

()

問 9	問 10	問 11	問 12	問 13	問 14	問 15
-----	------	------	------	------	------	------

二

問 1	(1)	(2)	(3)
-----	-----	-----	-----

問 2	Ⅱ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅳ
-----	---	---	---	---

問 3	問 4	問 5
-----	-----	-----

問 6	理由
-----	----

三

①	②	③	④	⑤
---	---	---	---	---

四

⑥	①	⑦	②	⑧	③	⑨	④	⑩	⑤	える	かな
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----